

みづみづ  
がっがっ  
?!

スルカシ  
技



Super Real Mahjong PV ONLY BOOK

威風堂 2023



# SUPER REALMAHJONG PV



※実は表情差分も一杯あるのですがページの都合でカットしてます。

## ●まえがき●

・こんにちは威風堂です。

コミケ100という事で参加しました！お題は『スーパーリアル麻雀P5』の遠野みづきちゃんオンリーとなりました。

原作は1994年・・・執筆陣もまだ若くハジけていた時期でもありました。私がコミケにはじめてサークル参加した頃でもあります。

そんなみづきちゃんオンリー本をお楽しみくださいー。

(中野ら～めん)

たまつやだ：表紙・P03～P14 /じゃっじ：P15～P21  
杜若某：P22 /中野ら～めん：テキスト&編集



# 『遠野みづぎはイカサマと』

## 『知りながら麻雀勝負に負けている』

TXT:中野ら〜めん  
ILS:たまつやだ

「えへ・・・ええ・・・また負けちゃったのお」  
麻雀同好会のひとりである遠野みづぎがバツ悪く俺に笑いかける

今日こそは彼女をヤッてやる。  
俺はそう意気込んで彼女の戦術を頭に叩き込み  
そしてある『おまじない』を仕掛けて挑んだ

どうやらその効果は抜群であり、彼女の脱衣を一気に進める事が出来た。  
まいったなあ・・・まさか最後の勝負で役満を振り込むなんてえ  
役満なんて初めてだ。  
「さあ・・・脱いでくれよ・・・いつもみたい

俺は鼻息荒く彼女に言う。  
「もう・・・解ったわよ。今日は特別ね♪」  
そう言っただけで彼女の手がブラウスに掛かる

「・・・ん？ブラウス？いつもと違う違和感に、彼女は俺に語りかけた  
「今日はブラしてるんだ・・・だっって制服のままだったからあ」

みづぎは家ではいつもノーブラだ。  
しまった。俺が焦り過ぎたかでもいつもと違い初めて見る彼女の下着姿が俺の心にスイッチを入れた。





「ふふ……おっぱいが見た  
いの？」

いつも見ているクセに♡」  
確かにみづきに勝った時には  
彼女は躊躇なく見せてくれる  
今日もいつものノリで少し照  
れ臭そうに

ブラを外すと「ぼるんっ！」  
という音と共に

その豊かな胸をさらけ出した  
「すっげえ……すげえおっ  
ぱいだよ！」

俺はいつも以上に感嘆の声を  
上げる

「もう……ノセ上手  
ね……♡」

確かに何度も見たおっぱいだ  
ったが

制服からこぼれ落ちたその巨  
乳には

いつも以上にたわわな感触を  
感じた。

「もう……まだ触っちゃダ  
メだよ」

ゆっくりと脱衣するみづきに  
つい襲い掛かりそうになるが  
それを見越したみづきが制止  
する

「まだ……だよ♡」

お預けを喰った犬のような俺  
の顔を見て

みづきはくすくすと挑発を続  
けた





「え……お尻のアナが見た  
いの？」  
最後の一枚を前に俺はみづき  
にリクエストをする。  
みづきはシンプルな下着が好  
みであり  
色違いはあるものの、いつも  
同じ計上のパンティを履いて  
いる  
今日は気合のTバッグだ。そ  
の面積はあまりにも少ない。  
それを脱がす機会はあまりな  
いが、今回は特別だ  
でも、今回は特別だ  
自分からお尻を見せるように  
要求したのだが……  
「そんな事見たいなん  
て……ちよつとヘンタイっ  
ぽいよ？」  
みづきは少し抵抗を見せた  
俺ははだめ……かな？と、  
少し甘えるように再度聞く  
「うふふふ……しよーがな  
い♡イイよ♡キミになら全部  
見せてあげる♡」  
そう言ってみづきは後ろを向  
き  
パンティのクロッチを指で摘  
み上げる。  
Tバッグを履きなれていてみ  
づきには目焼けの境界線が無  
い。  
「うふふふ……どう？見え  
る？」  
「ああ、お尻のシワまでくっ  
きりだ……」  
「ほか……♡ヘン・タ・  
イ♡」  
いじわるに微笑むみづきを見  
て俺は抑えられなくなり  
彼女を抱きしめた。





「みづきっ!」  
抱きしめるなり  
俺は自分の陰茎をみづきの口  
に突っ込む

「むぐぐぐうんぐぐ」  
みづきもその行動に最初は抵抗  
をしていただけ、俺のイラマ  
徐々に受け入れ、俺のイラマ  
自分の動きを始める

「あんぐぐぐちゅうぐぐぐ」  
ぐぐぐぐちゅうぐぐぐ

「うおおおおお温かい  
温かい温度が俺のチンポを  
包み込み

龟头はみづきの舌ですっかり  
覆われていた。  
「じゅじゅじゅじゅ」

「おチンポくさあおおお」  
「でもとっても熱いおお」  
これじゃすぐに出しちゃうつ  
もり?」

そう言って彼女は俺の玉袋を  
揉み始める  
「うおお」

その刺激は俺の絶頂を強制的  
に呼び起こされた。



どびゅ！びゆるるるっ！  
俺はみづきの口内に精液を注ぎ込む

「♥！っんんんん♥♥♥」

最初は目を白黒させ、チンポを話すかと思われたが射精を呼び過ぎた反省からかみづきはそのまま口で受け止めた。

「ぶああ・・・もう・・・いきなりすぎるよ♥」

「でも出したばかりなのにまだ硬い・・・カチコチのままなのね♥」

「悪い・・・つい思いがけず出しちゃった」

「うん・・・♥でも良かったよ。アタシ、強くされるの・・・好き♥」

「ねえもっと触ってよ・・・♥今度はおタシの方を♥♥」

そう言っただけはパンティを脱ぎ、オマンコを俺に向けて見せつけ始めた。

「こっちのほうじゃ負けないんだから♥」

みづきの声は高揚している。スィッチが入ったようだ





「うん・・・あん・・・♡  
♡ソコ♡いいよ・・・♡」  
♡俺の指に合わせて

うねうねと膣内が蠢く  
それは俺が動かすよりも早く  
熱い膣内だ・・・しかもその  
花弁からは少しすえた甘い香  
りが漂う

彼女の唾液と吐息で部屋には  
色香が充満していった。

「もうちょっと・・・♡オク  
まで欲しい・・・♡」

膣口の入口を弄る俺の指に  
みづきがじれったくなつたの  
かおねだりを見せる

「もう・・・♡我慢できない  
ヨ・・・♡♡♡」

俺は指の出し入れを早め  
彼女のリアクションを伺う

「んっあっあっ・・・ああん  
♡」

指を素早く、そしてより奥ま  
で入れると

彼女の吐息が早くなり  
徐々に膣内も柔らかく解され  
ていく

「うん・・・あっはああん  
♡♡♡」

♡





「んひい・・・イクツイ  
っちやううう!♥♥♥」

膣口が急激に締め始め、それ  
に合わせ俺の指を奥まで  
吸い込もうとする

その感触に恐れ俺は指を抜  
き取った  
その刺激がみづきの性感帯  
を刺激する

「やっやああん♥♥♥」  
抜いた指先から水気が一層  
と押し上げてきた。

「♥♥♥ひやあああああ  
ん!♥いやあん!♥♥もう  
っ♥おしお吹いちやううう  
ん!♥♥♥」

指先の熱さは最高潮に達  
し、みづきは愛液を吹き散  
らかす

「もお・・・♥だめ  
え・・・♥♥♥」

「恥ずかしい♥♥♥  
こんな・・・♥♥♥」

どうやら指でイカされたの  
は初めてだったようだ  
みづきは太腿を震わせ、大  
きく息をつき姿勢を維持す  
るのに必死な様子でした。





「あぁっ♡こんな恰好・・・♡恥ずかしい・・・」  
俺はみづきに挿入を試みる  
ずいぶん肉の抵抗を越  
え彼女への交わりは  
驚くほど簡単に挿入に成功し  
た。  
「はぁあん♡♡はいっっちゃっ  
た♡」  
「熱い・・・♡硬いわ・・・  
♡♡」  
みづきも俺のチンポを気に入  
ったようだ  
まだお互いのペースが掴めず  
きこちない動きをお互いに探  
るもどかしい・・・でも夢中に  
なる  
俺はひくひくと蠢くアナルに  
指を這わせる  
最初はビクッと動くみづきだ  
が、抵抗はしてこない。  
俺はそのまま容赦なく尻穴に  
指を挿れる  
「うう♡♡うう！♡」  
強く抵抗するかと思いきや、  
尻穴はそのままずぶずぶと侵  
入を許す  
まるで自分の指が尻尾の代わ  
りをした様になる。  
「ふふ・・・まるで犬のよう  
だよ尻穴が尻尾の様に動くじ  
やないか」  
「いやあん♡」  
強烈に尻を振り尻穴の吸いつ  
きは俺の指を放さない。  
その動きは膣内のチンポも出  
し入れする暇もない程に強く  
激しく蠢い続ける――





「何てイヤらしい女だ。愛してよみづき」

俺の言葉にみづきの膣内は一層熱くなる。彼女の高揚も絶頂状態のようだ

「あたしも好きヨ・・・強いアナタが好きい♥♥♥」

膣穴にあふれる水滴が、より一層多くしたたっていた。

挿入を続けたまま、体位を変え、俺はみづきを抱え上げる強く弾む乳房を抑えると俺はそのまま両手で包み込んだ両の指でみづきの乳首をなぞり上げる

乳首は既に硬く、尖り上がっている。

「いやあん。乳首い・・・♥♥♥優しくヨリヨリしないでえ♥♥♥」

どうやら乳首は彼女の性感帯のようだ  
俺はその尖った角先を指で押し込んだり、つね上げてもて遊ぶ。

「あっ♥♥♥あっ♥♥♥やああん♥♥♥」

大きな胸を揉みしだき俺は背中から彼女の体重を愉しんでいた。





「んっはあっーすっ婁  
い・・・気持ちイイ♡」  
彼女を上を持ち上げた事によ

り  
みづきの豊満な身体は弾み  
たんっ、たんっ、とリズムカ  
ルに上下する  
俺も彼女の嬌声に流され腰の

動きが早くなる  
「す、婁いっ♡♡んはあっオ  
クまで・・・感じちゃう♡♡

」  
「はあっはあぁん♡♡♡ア  
タシのナカで跳ね回ってるみ  
たい♡」

彼女の満足そうな吐息が俺の  
性欲を増幅させる  
だがまだみづきは何かしろう  
と腰を動かし始めるが

俺が先行して二度・三度と突  
き上げると  
「ううんっ・・・♡♡♡ひ  
や・・・♡♡♡ひやあぁあ

ん♡♡♡」  
身体力が抜けていくように  
俺に身体を預けていた  
「もうダメ・・・♡♡♡イッち  
やう・・・♡♡♡イッちやうよ  
おぉ♡♡♡」

もはやみづきは俺の思い通り  
に動く玩具の様になってい  
た。





今度は俺の番だ。。。腰の動きを速め

絶頂まで精一杯の準備を進める

腰の動きに射精感の欲求が高まり

視線の先が真つ自になる。

「イック。。。ぞおおお！」

俺はみづきの膣内に思いつき

りザーメンを注ぎ入れる

どびゅうううっ！びゅるるううっ！

今までにないたっぷりとした達成感を

そのままみづきの膣内に注ぎ込む

「ああ。。。♡♡♡あああああ

ああっ！♡♡♡」

射精の震えと共にみづきの身体もガクガクと震える。

彼女も同時にイッているのだ。

「あっやん♡そんなに。。。いっぱい♡♡♡」

みづきの膣内に納まらない精液が隙間から飛び出してくる

「やああああ。。。♡漏れちゃう。。。♡♡♡」

「漏れちゃって♡るううう。。。♡♡♡」

みづきの身体は震えたまま大きく弓なりにのけぞっていた。









【業務連絡】じゃっじ先生に  
コメントをお願いしましたが  
逃げられました・・・



























# スーリアル 麻雀 P V



キャラデザは  
田中良氏。  
田中キャラと言えば  
TVアニメ「バーチャファイター」  
を思い出す世代。

アニメ主題歌「愛がたりないぜ」  
は好きだったな〜。  
ふと聴きたくなり、この原稿  
は↑を聴きながら描きました!!

2022.7.27 杜若某  
スーリアル麻雀全然話さねえ



# SUPER REALMAHJONG PV

それでは次回もゲーセンでお会いしましょう



・みづきちゃんアガってる!?

冊子版 発行日：2022年8月14日 (C100)

電子版 発行日：2023年3月21日

発行：威風堂

印刷：JC2 TAIYAKI

mail：nakanorarmen@hotmail.com

・注意書き・

本書でのデジタルコピーを含む無断転載・複製・複写を禁止いたします。  
上述の行為を発見舌際には速やかに法的処理を致します。  
またネットオークション、フリマへの出品はご遠慮ください。





**威風堂 2023**  
**SUPER REALMAHJONG PV**

**Judge Tamatsuyada Kakitsubata**  
**Nakano Ramen**



フみ  
がっ  
る!?  
きゅん

電子版特典  
カラーページ文字無し版+差分





































































THANKYOU ♡